

全国防災ジュニアリーダー 育成オンライン研修

実施報告書

はじめに

間もなく阪神・淡路大震災から26年、東日本大震災から10年、熊本地震から5年が経とうとしています。

我が国は、地震の他にも、度重なる台風・豪雨被害など、場所を問わず自然災害が起こりやすい特性を有しています。このような自然災害に対応するために、過去の災害から得られた教訓を踏まえ、各地域での防災・減災対策が、今、必要とされています。

「全国中学生・高校生防災会議」は、全国で防災教育や被災地支援活動に取り組んでいる中学生・高校生が一堂に会し、ともに学び、交流するなかで、これからの防災・減災の担い手としての防災意識と社会参画意識を向上させることを目指して、令和2年度はオンライン会議として開催しました。

事業概要

主催	国立青少年教育振興機構
特別協力	公益財団法人上廣倫理財団
日程	令和2年12月26日(土)
対象	全国で防災教育や被災地支援活動に積極的に取り組んでいる中学生・高校生及び教員
参加者	15都府県31校(中学校:11校、高校:20校)
参加者数	166名(中学生:33名 高校生:80名 教員:53名)

参加校

東北

- ・釜石市立釜石東中学校
- ・岩手県立大槌高等学校
- ・宮城県築館高等学校
- ・気仙沼市立階上中学校
- ・福島県立小高産業技術高等学校

中部

- ・新潟県立糸魚川白嶺高等学校

中国

- ・岡山県立真庭高等学校

九州

- ・熊本県立第二高等学校
- ・熊本県立高森高等学校
- ・南阿蘇村立南阿蘇中学校
- ・大分県立佐伯鶴城高等学校
- ・宮崎県立福島高等学校

関東

- ・千葉県立館山総合高等学校
- ・東京都立大崎高等学校
- ・東京都立新宿山吹高等学校
- ・桜美林高等学校

近畿

- ・大阪市立白鷺中学校
- ・京都府立東稜高等学校
- ・兵庫県立尼崎小田高等学校
- ・神戸市立神港橘高等学校
- ・兵庫県立舞子高等学校
- ・兵庫県立西脇北高等学校
- ・南あわじ市立倭文中学校
- ・南あわじ市立沼島中学校
- ・南あわじ市立西淡中学校
- ・南あわじ市・洲本市組合立広田中学校
- ・南あわじ市立三原中学校
- ・南あわじ市立南淡中学校

四国

- ・徳島市津田中学校
- ・高知県立大方高等学校
- ・高知県立須崎総合高等学校



事前の取組

11月
1日～

講師による 事前講義動画の公開

各分野の専門家である3名の講師による講義動画を事前に公開し、参加する中学生・高校生からは、講義に対する質問や感想を募りました。

特別
講義



講義テーマ

強くしなやかな 美しい国 日本の防災減災・国土強靱化と公衆免疫・公衆医療強靱化

講師

衆議院議員 福井 照氏

講義
1



講義テーマ

今、防災ジュニアリーダーに求められること

講師

宮城教育大学 特任教授 野澤 令照氏

講義
2



講義テーマ

感染症と災害～被災地KOBEの25年の経験から～

講師

CODE海外災害援助市民センター 事務局長
吉椿 雅道氏

11月
1日～

参加校による 取組発表動画の 制作・公開

各校で取り組む防災・減災に関する活動報告を、他の参加校へ共有することを目的として制作しました。制作した発表動画を事前に公開することで、参加者は他校の取組を予め知ることができ、当日の情報交換をより深めることができました。

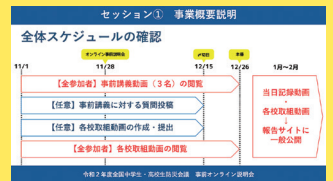


千葉県立館山総合高等学校 発表動画より

11月
28日

オンライン説明会

参加申込校を対象としたオンライン事前説明会を実施しました。事業概要の説明とともに、当事業のねらいや、参加するうえでの心構え、本番までのスケジュールなどを確認しました。また、参加校同士の事前の交流会を実施することで、全国の仲間と知り合うきっかけになりました。



当日の様子

14:00～

開会

主催者挨拶

国立青少年教育振興機構 理事長
鈴木 みゆき

来賓挨拶

衆議院議員 福井 照氏



14:10～

オリエンテーション

全体ファシリテーター

国立青少年教育振興機構
青少年教育研究センター 副センター長
青山 鉄兵



14:20～

セッション1 事前講義の質疑応答

参加者から事前に投稿された質問に対して、各講師より回答と共に、更に学びを深めるお話をいただきました。

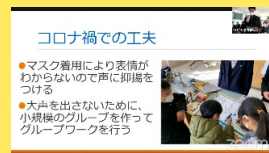


福井 照氏 野澤 令照氏 吉椿 雅道氏

15:25～

セッション2 代表校による取組発表

コロナ禍における取組について、代表校より発表をいただきました。



発表校

兵庫県立舞子高等学校

テーマ

「学びと発信の工夫
～変わる形・変わらぬ思い～」

15:45～

セッション3 他校との情報交換

10グループ3～4校に分かれ、「各校で取り組んでいること」「課題や悩み」などをテーマに、情報交換を行いました。



グループファシリテーター

宮城教育大学 学生及びOB

16:40～

セッション4 まとめ

学校ごとに意見交換をし、挙げられた意見を、Googleスプレッドシートを活用して全体に共有しました。

17:10～

講師総評

17:15～

閉会



参加者の声

兵庫県立 尼崎小田高等学校のみなさん



他の学校の皆さんに、色々な目線から自分たちの活動について、アドバイスや質問をいただき、自分たちの活動を見直すことができました。自分たちにはなかったアイデアを出してもらう事ができ、活動の幅が広がるきっかけにもなったと思いました。

東日本大震災の記憶を風化させないための活動として、「語り部」を行なっている学校のお話を聴き、私たちの学校は阪神・淡路大震災の被災地ですが、あまり風化させないための活動を行なっていなかったため、これからもっとしていかなければならないと、意識することができました。

南阿蘇村立 南阿蘇中学校のみなさん

新型コロナウイルス対策と避難所運営の同時進行の難しさについて考える機会になりました。また、他校との交流を通して、他の学校の防災に対する考え方や取組を知ることのできるきっかけにもなりました。この経験をもとにして、防災についてもっと理解を深め、これから起こっていく災害に対応できるようにしていきたいと感じました。災害についての民話や神話などを調べることで、地域に防災のことを伝える一つの手段としてわかりやすいと考えました。自分たちが地域の文化を知るきっかけになると共に、地域との繋がりにもなるため、今後、実践していきたいと思えます。



東京都立新宿山吹高等学校 2年 大内 心温 さん



他校との交流のなかで、これからどのようにして自分の学校の生徒にも防災に対して関心を持ってもらうか、参考になる意見を聴くことができました。若い世代が主体となって、地域や街を引っ張っていく必要があると感じました。

今回、参加したことにより、防災に対する視野が広がり、今後、バラエティに富んだ防災活動を行っていただけると感じました。本校で行っている活動の「アプリ開発」については、どのようなものを取り入れればよいか、意見を聴くことができたので、今後の取組に活かしていきたいと思えます。

教員の声

講師の先生方の動画は大変勉強になり、生徒も日頃の防災活動と結びつけて考えておりました。実際に活動している中高生の話があり「自分ももっとやれる」と火がついたようでした。また、海外の災害に対する対策など、普段触れることのできない貴重なお話で生徒も興味深く聞いておりました。

普段の弱さが災害時に明るみになるという話から、昨年の台風被害の問題を洗い出すという行動に移しています。また、「防災と言わない防災」という言葉が生徒も私も心に残り、イベントの開催を計画して実行していきたいと考えております。

(千葉県立館山総合高等学校 教員)

今回の研修に参加し、生徒たちは防災について今まで以上に深く考えるようになりました。講師の先生のお話を聞き、海外の取組など新しい知識が身に付きました。そのおかげで課題を解決するためのアイデアを見つけることができました。

また、高校生のレベルの高い取組に刺激を受け「防災学習を更に発展させたい」という思いを持ち、全校生徒への周知を行う集会を開きたいと話していました。今後は、他校や地域との連携を行うことで活動の幅を広げていきたいと思えます。

貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

(気仙沼市立階上中学校 教員)

報告サイトのご紹介

事業当日の動画記録、講師による事前講義、各校の取組発表動画は、国立青少年教育振興機構ホームページからご覧いただくことができます。▶

<https://www.niye.go.jp/services/plan/bousai/>



その後の取組の紹介

熊本県立 第二高校のみなさん

同じグループになった3校で防災グッズを贈りました。

各校の様々な取組を聞き、5年前の熊本地震を改めて振り返るきっかけとなりました。5年前は、私たちは中学2年生で支援を受ける側にいましたが、この会議を通して今の私たちにできることを模索するようになりました。まずは、大阪市立白鷺中学校からいただいたヒマワリの種を学校敷地内の道路沿いに植えて、このヒマワリの由来を掲示することで災害に対する備えを地域の方々にも呼びかけていきたいと考えています。防災手帳も届きました！いざという時に、正しい判断ができるように、第二高校版の作成を防災委員が中心となって行ってきたいと考えています。岩手県立大槌高校からは、DVD付きの絵本をいただきました。図書館に防災コーナーを設けて、絵本をはじめ熊本地震の記録などを設置し、災害を風化させないよう発信していきたいと考えています。今回は、たくさんのをいただいだけだったので、次の機会にはそれを返せるように取り組みを深めていきたいと思います。



岩手県立 大槌高校のみなさん

「防災絵本」の紹介

DVD付き防災絵本『伝えたいこと あの日、私は小学2年生だった』は、震災当時小学2年生だった生徒（現高校3年生）たちが制作しました。東日本大震災津波での体験から、素早く高台に逃げて助かったことや避難生活のことをまとめています。また、地震発生時にとるべき行動を正しく身につけてもらえるよう、クイズ形式のものもあります。たくさんの方に読んでいただき、災害から多くの命が助かることに繋がってほしいとの思いから、全国各地へ贈呈しています。



大阪市立 白鷺中学校のみなさん

「防災手帳」の紹介

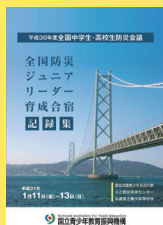
白鷺プラス防災手帳は、白鷺中学校の生徒自主防災チーム「防災ALT（防災Active Learn Team）」が作成しています。防災手帳は2018年度に生徒手帳に入るサイズで全校生徒に配布することから始めました。2020年度は日本教育公務員弘済会スクールフォローアップ事業の研究助成を受けて作成し、中学校と地域をつなぎ防災・減災を考えるきっかけになることを願い、校区のご家庭約9000世帯にも配布しました。

※白鷺プラス防災……みんなの安心・安全を守る全校生徒・保護者・地域・教職員で取り組む防災をプラスした活動です。



これまでの「全国中学生・高校生防災会議」

平成30年度 全国中学生・高校生防災会議 ～全国防災ジュニアリーダー育成合宿～



日時 平成31年1月11日(金)～13日(日)
 主管 兵庫県立舞子高等学校、
 国立淡路青少年交流の家
 参加校 31校
 参加者 94名(中学生16名 / 高校生55名 / 教員23名)

令和元年度 全国中学生・高校生防災会議 ～全国防災ジュニアリーダー育成合宿～



〈東北会場企画〉
 日時 令和元年8月17日(土)～19日(月)
 主管 宮城県多賀城高等学校、国立花山青少年自然の家
 参加校 17校
 参加者 91名(中学生5名 / 高校生59名 / 教員27名)

〈熊本会場企画〉
 日時 令和元年11月15日(金)～17日(日)
 主管 熊本県立熊本第二高等学校、国立阿蘇青少年交流の家
 参加校 20校
 参加者 75名(中学生9名 / 高校生41名 / 教員25名)



◀ 記録集ダウンロード 国立青少年教育振興機構ホームページ
<https://www.niye.go.jp/services/plan/bousai/archive.html>

〈発行〉国立青少年教育振興機構 教育事業部 事業課
 〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1 / 電話番号 03-6407-7201 (代表)